

大学番号 私立22

注3

設置年度 平成 29年度

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

医療創生大学 看護学部 看護学科

(旧名称：いわき明星大学(平成31年度より大学名称変更)) 注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人医療創生大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

企画課

職名・氏名

シヨキ スズキ トモヒロ
書記・鈴木 智博

電話番号

0246-29-5327

(夜間)

0246-29-5111

e-mail

kikaku@isu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	41
7. その他全般的事項	59

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人医療創生大学
学校法人いわき明星大学

(2) 大学名

医療創生大学
いわき明星大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒970-8551

福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1

~~(〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号)~~

(〒277-0803 千葉県柏市小青田1丁目3番4号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ テツオ) 小川 哲生 (平成27年8月)	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (平成31年4月) (平成29年11月)	法人合併に伴う寄附行為変更のため 平成31年4月3日(元) 理事長の交代 平成29年11月24日(30)
学長	(ヤマザキ ヨウジ) 山崎 洋次 (平成25年4月)	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (令和2年4月)	学長の交代 令和2年4月1日(2)
学部長	(クメ ミヨコ) 久米 美代子 (平成29年4月)	(オオホリ ノボル) 大堀 昇 (令和3年4月)	学部長の交代 令和3年4月1日(3)
学科長等	(クロダ マリコ) 黒田 真理子 (平成29年4月)	(オオホリ ノボル) 大堀 昇 (平成31年4月)	前学科主任死亡(平成31年3月7日)のため 平成31年4月1日(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4年	80人	一年次 一人	320人	新規入学者を募集	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80 () []	—	80 () []	—	80 () []	—	80 () []	—	80 () []	—	1.05倍	1.06倍	
志願者数	160 () []	—	162 () []	—	319 () []	—	293 () []	—	180 () []	—			
受験者数	157 () []	—	154 () []	—	313 () []	—	289 () []	—	178 () []	—			
合格者数	134 () []	—	151 () []	—	256 () []	—	227 () []	—	156 () []	—			
B 入学者数	86 () []	—	80 () []	—	100 () []	—	76 () []	—	83 () []	—			
入学定員超過率 B/A	1.07		1.00		1.25		0.95		1.03				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	86 [-] (-)	— [-] (-)	81 [-] (1)	— [-] (-)	100 [-] (-)	— [-] (-)	84 [-] (8)	— [-] (-)	83 [-] (-)	— [-] (-)	H30年度 1年次（入学80名+留年1名） R2年度 1年次（入学76名+留年8名）
2年次	/		84 [-] (-)	— [-] (-)	85 [-] (6)	— [-] (-)	92 [-] (4)	— [-] (-)	81 [-] (6)	— [-] (-)	
3年次	/		/		74 [-] (-)	— [-] (-)	75 [-] (-)	— [-] (-)	87 [-] (4)	— [-] (-)	
4年次	/		/		— [-] (-)	— [-] (-)	72 [-] (-)	— [-] (-)	73 [-] (5)	— [-] (-)	
計	86 [-] (-)	— [-] (-)	165 [-] (1)	— [-] (-)	259 [-] (6)	— [-] (-)	323 [-] (12)	— [-] (-)	324 [-] (15)	— [-] (-)	

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	86人	1人	平成29年度	1人	0人	進路変更(就職)(1人)
平成30年度	165人	5人	平成29年度	4人	0人	一身上の都合(2人)、進路変更(進学)(1人)、就学意欲の低下(1人)
			平成30年度	1人	0人	体調不良(1人)
令和元年度	259人	13人	平成29年度	4人	0人	一身上の都合(1人)、就学意欲の低下(1人)、学力不足(1人)、体調不良(1人)
			平成30年度	5人	0人	他学部への転籍(1人)、体調不良(1人)、進路変更(就職)(2人)、進路変更(検討中)(1人)
			令和元年度	4人	0人	一身上の都合(2人)、進路変更(進学)(1人)、体調不良(1人)
令和2年度	323人	9人	平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	1人	0人	進路変更(就職)(1人)
			令和元年度	7人	0人	進路変更(就職)(3人)、進路変更(進学)(1人)、体調不良(1人)、学力不足(2人)
			令和2年度	1人	0人	就学意欲の低下(1人)
令和3年度	324人	0人	平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
合計		28人		28人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{86} = \boxed{1.16} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{165} = \boxed{3.03} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{13}{259} = \boxed{5.01} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{323} = \boxed{2.78} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{324} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュワーズセミナー	1前	2			6	1	3	3			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									4
	英語B2	1後	1									4
	英語C1	234前	1									4
	英語C2	234後	1									4
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心の科学	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								5
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								2
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								1
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									2
	健康・スポーツ1	1234前	1									3
	健康・スポーツ2	1234後	1									3
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2								1	
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			1						
	保健統計学	2前	2			1						
	疫学	3前	2			1						
保健医療福祉行政論	3後	2									1	
看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			3	1						
看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			2	1	1	1	2			
看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	1	2	1	2			

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュワーズセミナー	1前	2			0	3	4	1			
	日本語リテラシー	1前	1									4
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									2
	英語B2	1後	1									2
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心理学概論	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								2
	文学の世界	1234後		2								2
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								3
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2				1				1
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								5
	食品の科学	1234後		2								3
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									1
	健康・スポーツ1	1234前	1									2
	健康・スポーツ2	1234後	1									2
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			0						1
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2								1	
	薬理学	1後	2			0	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			0		1				
	保健統計学	2前	2			0		1				
	疫学	3前	2			0		1				
保健医療福祉行政論	3後	2									1	
看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			1	0	1					
看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			1	0	1	0				
看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	0	2	0	2			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			1	2	1	1	2		
	看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			1	2	1	1	2		
	看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	2前	2			1	1	1	2	2	1	
	看護実践基礎学実習(基礎)1	1後	1				2	4	8	2	2	
	看護実践基礎学実習(基礎)2	2前	2				2	4	8	2	2	
	生涯発達看護学(成人)	1後	1			2						
	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			2						
	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			2			1			
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			1		1				
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			1	1					
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			1	1					
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			2	1	1	2	3		
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	1					
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			3	1	2		2		
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			3	1	1		3		
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	1			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	2	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			2						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			2						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1		1				
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			2		2	5			
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			1						
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			1						
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			1						
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			1		1	3			
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			3						
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			3	1					
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			2		2				
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			1	1	2	1	2		
	看護マネジメント	3前	1			1		1				
医療安全	3前	1								1		
国際看護活動論	3後	1			2							
放射線と健康支援	3後	1								1		
災害看護	4前	1			1							
災害看護演習	4前	1			2			1				
訪問看護マネジメント	4前	1			2							
リハビリテーション看護論	4前		1		1							
コンサルテーション論	4前		1							1		
緩和ケア	4前		1		2	1					1	
クリティカルケア	4前		1									
看護学シミュレーション	3前	1			5	2	6	8	2			
看護学統合実習	4後	2			4	2	6	8	2			
看護援助技術レファレンス	4前	2			2	1	2	6	2			
看護研究	3後	1			1							
卒業研究	4通	2			12	4	5					
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	1						
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	1		1				
	学校保健・産業保健	3後			2	1						
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	1						
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1		2				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1		2		2		
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			1	1	0	0	2		
	看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			1	1	0	0	2	2	
	看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	2前	2			1	0	0	0	2	0	
	看護実践基礎学実習(基礎)1	1後	1			1	1	3	2	2		
	看護実践基礎学実習(基礎)2	2前	2			1	1	3	2	2		
	生涯発達看護学(成人)	1後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			0	1	1	0			
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			0	1	1	0	3		
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1		0	0			
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1		0	0			
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	0	1	1			
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			1	0	1			2	
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			1	0	1			3	
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		1	0			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		1	0	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			0						1
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			0						1
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			0				1		
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			0				1	5	
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			0		0				
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			0		1				
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			0		1	1			
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			0		1	1	3		
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			0						1
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			1		0	0			
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			0	1	0	0			
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			0	1	2	0		2	
	看護マネジメント	3前	1			0		1				
医療安全	3前	1									1	
国際看護活動論	3後	1			0							
放射線と健康支援	3後	1									1	
災害看護	4前	1			0	1	1	1				
災害看護演習	4前	1			0	2	1	1				
訪問看護マネジメント	4前	1			0							
リハビリテーション看護論	4前		1		1							
コンサルテーション論	4前		1								1	
緩和ケア	4前		1		0	1					1	
クリティカルケア	4前		1									
看護学シミュレーション	3前	1			2	2	4	2	2			
看護学統合実習	4後	2			2	3	4	2	2			
看護援助技術レファレンス	4前	2			1	1	3	2	2			
看護研究	3後	1			1	0						
卒業研究	4通	2			2	4	4	1				
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	0	1					
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	1	2	0				
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	0	2	0				
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	0	2	0				
	学校保健・産業保健	3後			2	0	1					
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	0	1					
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1	2	0				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1	2	0		2		
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2			6	1	3	3			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									3
	英語B2	1後	1									3
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心の科学	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								5
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								2
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								1
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									2
	健康・スポーツ1	1234前	1									3
	健康・スポーツ2	1234後	1									3
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			1						
	保健統計学	2前		2		1						
	疫学	3前		2		1						
	保健医療福祉行政論	3後		2								1
	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			3	1					
	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			2	1	1	1	2		
	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	1	2	1	2		
	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			1	2	1	1	2		
	看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			1	2	1	1	2		
	看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	2前	2			1	1	1	2	2	1	
看護実践基盤学実習(基礎)1	1後	1			2	3	7	7	2			
看護実践基盤学実習(基礎)2	2前	2			2	3	7	7	2			
生涯発達看護学(成人)	1後	1			2							
健康生活看護学(成人概論)	2前	1			2							

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2			6	1	5	1			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									3
	英語B2	1後	1									3
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心理学概論	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								2
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								4
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								1
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								5
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									2
	健康・スポーツ1	1234前	1									3
	健康・スポーツ2	1234後	1									3
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2						1			
	人間栄養学	1後	2						1			
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1		1	1		
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前		2					0		1	
	保健統計学	2前		2					0		1	
	疫学	3前		2					0		1	
	保健医療福祉行政論	3後		2								1
	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	1前	2						1	0		
	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2						0	0	1	0
	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2						0	0	2	0
	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2						0	1	1	0
	看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2						0	1	1	0
	看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	2前	2						0	0	1	1
看護実践基盤学実習(基礎)1	1後	1						1	4	5	2	
看護実践基盤学実習(基礎)2	2前	2						1	4	5	2	
生涯発達看護学(成人)	1後	1						0				
健康生活看護学(成人概論)	2前	1						0				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			1			1			
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			1		1				
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			1	1					
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			1	1					
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			2	1	1	2	3		
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	1					
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			3	1	2	2			
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			3	1	1	3			
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	1			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	2	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			0						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1			1			
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1			2	5		
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			1						
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			1						
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			1						
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			1						
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			3						
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			3		0				
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			2		1				
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			1	1	2	1		2	
	看護マネジメント	3前	1			1		1				
	医療安全	3前	1									1
	国際看護活動論	3後	1			2						
	放射線と健康支援	3後	1									1
	災害看護	4前	1			1						
	災害看護演習	4前	1			2			1			
訪問看護マネジメント	4前	1			2							
リハビリテーション看護論	4前		1		1							
コンサルテーション論	4前		1								1	
緩和ケア	4前		1		2	1					1	
クリティカルケア	4前		1				1					
看護学シミュレーション	3前	1			4	2	5	7	2			
看護学統合実習	4後	2			3	2	5	7	2			
看護援助技術レファレンス	4前	2			1	1	2	5	2			
看護研究	3後	1					1					
卒業研究	4通	2			11	4	4					
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	1						
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	1		0				
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	1		1				
	学校保健・産業保健	3後			2	1						
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	1		2				
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1		1			2	
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			0				1		
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			0			1			
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			0		1				
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			0		1				
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			0		1	1	1	3	
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1		1				
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			3		1	2			2
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			3		1	1			3
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1			2	1		
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1			2	2	5	
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1				1		
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1				2	5	
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			0						
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			0						
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			0			1			
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			0			1	1	3	
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			2						
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			2			0			
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			2			1			
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			0		1	2	1		2
	看護マネジメント	3前	1			1			1			
	医療安全	3前	1									1
	国際看護活動論	3後	1			2						
	放射線と健康支援	3後	1									1
	災害看護	4前	1			0						
	災害看護演習	4前	1			1			1	0		
訪問看護マネジメント	4前	1			1							
リハビリテーション看護論	4前		1		0							
コンサルテーション論	4前		1								1	
緩和ケア	4前		1		1		1				1	
クリティカルケア	4前		1						1			
看護学シミュレーション	3前	1			3		2	6	5	2		
看護学統合実習	4後	2			3		2	6	5	2		
看護援助技術レファレンス	4前	2			1		1	2	3	2		
看護研究	3後	1						1				
卒業研究	4通	2			8		3	5				
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	1						
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	1			1			
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	1			0			
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	1			1			
	学校保健・産業保健	3後			2	1						
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	1						
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1			1			
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1			1		2	
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2			4	1	5	1			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									3
	英語B2	1後	1									3
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心理学概論	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								4
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								3
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								5
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									1
	健康・スポーツ1	1234前	1									2
	健康・スポーツ2	1234後	1									2
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			0		1				
	保健統計学	2前	2		2	0		1				
	疫学	3前	2		2	0		1				
	保健医療福祉行政論	3後	2		2							1
	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			2	0	2				
	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			1	0	3	0	2		2
	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	0	3	0	2		2
看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			1	1	2	0	2		2	
看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			1	1	2	0	2		2	
看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	2前	2			1	0	2	0	2	0	0	
看護実践基盤学実習(基礎)1	1後	1			1	1	5	2	2		2	
看護実践基盤学実習(基礎)2	2前	2			1	1	5	5	2		2	
生涯発達看護学(成人)	1後	1			0	1	1					

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2			4	3	5	2			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									2
	英語B2	1後	1									2
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心理学概論	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								3
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								1
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								5
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									1
	健康・スポーツ1	1234前	1									2
	健康・スポーツ2	1234後	1									2
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2					1				
	人間栄養学	1後	2						1			
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			0		1				
	保健統計学	2前	2		2	0		1				
	疫学	3前	2		2	0		1				
	保健医療福祉行政論	3後	2		2							1
	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			3	0	1				
	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			1	0	3	0	2		2
	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	0	3	0	2		2
看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			1	1	2	0	2		2	
看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			1	1	2	0	2		2	
看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	2前	2			1	0	2	0	2	0	0	
看護実践基盤学実習(基礎)1	1後	1			1	1	4	3	2		2	
看護実践基盤学実習(基礎)2	2前	2			1	1	4	3	2		2	
生涯発達看護学(成人)	1後	1			0	1	1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准	講	助	助		
			修	択	由	授	授	師	教	手		
専門教育科目	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			0	1					
	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			0	1	1	0			
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6				0	1	1	0	3	
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	0					
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			2	0	2			2	
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			2	0	1			3	
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	0			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	1	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1			1			
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1			1	5		
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			0		1				
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			0		1				
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			0		1				
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			0		1	0	3		
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			1						
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			1		0				
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			1		1				
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			0	1	2	0		2	
	看護マネジメント	3前	1			1		1				
	医療安全	3前	1									1
	国際看護活動論	3後	1			2						
	放射線と健康支援	3後	1									1
	災害看護	4前	1			0						
	災害看護演習	4前	1			0		1	0			
	訪問看護マネジメント	4前	1			1						
	リハビリテーション看護論	4前		1		1						
コンサルテーション論	4前		1								1	
緩和ケア	4前		1		1	1					1	
クリティカルケア	4前		1				1					
看護学シミュレーション	3前	1			2	1	6	2	2			
看護学統合実習	4後	2			2	1	7	2	2			
看護援助技術レファレンス	4前	2			1	0	4	0	2			
看護研究	3後	1			1	0						
卒業研究	4通	2			6	2	6					
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	0						
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	0		1				
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	0		0				
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	0		1				
	学校保健・産業保健	3後			2	0						
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	0						
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	0		1				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	0		1			2	
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准	講	助	助		
			修	択	由	授	授	師	教	手		
専門教育科目	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			0	1					
	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			0	1	1	0			
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6				0	1	1	0	3	
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	0					
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			2	0	2			2	
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			2	0	1			3	
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	0			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	1	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1				2		
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1				2	5	
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			1		0				
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			1		1				
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			1		1				
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			1		1	0	3		
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			1						
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			1		0				
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			1		1	1	1		
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			1	1	2	0		2	
	看護マネジメント	3前	1			1		1				
	医療安全	3前	1									1
	国際看護活動論	3後	1			2						
	放射線と健康支援	3後	1									1
	災害看護	4前	1			0		1	1	1		
	災害看護演習	4前	1			0		2	1	1		
	訪問看護マネジメント	4前	1			1						
	リハビリテーション看護論	4前		1		1						
コンサルテーション論	4前		1								1	
緩和ケア	4前		1		2	1					1	
クリティカルケア	4前		1					1				
看護学シミュレーション	3前	1			3	2	6	2	2			
看護学統合実習	4後	2			3	3	7	3	2			
看護援助技術レファレンス	4前	2			2	1	5	2	2			
看護研究	3後	1			1	0						
卒業研究	4通	2			6	4	7	1				
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	0	1					
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	0	2	0				
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	0	2	0				
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	0	2	0				
	学校保健・産業保健	3後			2	0	1					
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	0	1					
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	0	2	0				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	0	2	0			2	
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、

「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・辞任の理由により、「英語B1」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・辞任の理由により、「英語B2」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・辞任の理由により、「英語C1」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・辞任の理由により、「英語C2」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「生涯発達看護学（小児）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「健康生活看護学（小児概論）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「健康生活看護学（小児援助）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「健康生活看護学実習（小児）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「地域養生看護学（在宅援助）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授4」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「助教6」から「助教5」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師4」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「公衆衛生看護方法論2」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「公衆衛生看護学実習A」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・就任辞退の理由により、「公衆衛生看護学実習B」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。

【平成30年度】

- ・職位変更及び講師就任の理由により、「フレッシューズセミナー」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師5」に変更。
- ・職位変更及び辞任の理由により、「フレッシューズセミナー」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教1」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「公衆衛生学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・教育内容充実の理由により、「保健統計学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・教育内容充実の理由により、「疫学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授1」へ、「准教授1」から「准教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅱ（コミュニケーション）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ、「准教授1」から「准教授0」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授1」から「准教授0」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅳ（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅴ（診療補助技術）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅵ（看護過程）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授1」から「准教授0」へ、「助教2」から「助教1」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎1）」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」へ変更。
- ・職位変更の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎1）」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師4」へ変更。
- ・職位変更及び辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎1）」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎2）」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」へ変更。
- ・職位変更の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎2）」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師4」へ変更。
- ・職位変更及び辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎2）」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・辞任の理由により、「生涯発達看護学（成人）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（成人概論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・急性期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・周手術期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・慢性期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・回復終末期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（成人）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ、「助教2」から「助教1」へ変更。
- ・担当科目追加の理由により、「健康生活看護学（小児概論）」専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神概論）1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神概論）2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神援助）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅概論）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ変更。
- ・辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅援助）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ変更。
- ・辞任の理由により、「チーム医療」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「災害看護」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「災害看護演習」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」へ変更。
- ・職位変更の理由により、「災害看護演習」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「訪問看護マネジメント」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」へ変更。
- ・辞任の理由により、「リハビリテーション看護論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・辞任の理由により、「緩和ケア」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」へ変更。
- ・辞任の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」へ変更。
- ・職位変更の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師6」へ変更。
- ・辞任及び職位変更の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・職位変更の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師6」へ変更。
- ・辞任及び職位変更の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・辞任の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授8」へ、「准教授4」から「准教授3」へ変更。
- ・講師就任の理由により、専任教員等の配置を「講師4」から「講師5」へ変更。
- ・教養学部における公認心理師課程の整備の理由により、授業科目の名称を「心の科学」から「心理学概論」に変更。
- ・辞任の理由により、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」へ変更。
- ・辞任の理由により、専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」へ変更。
- ・辞任の理由により、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任5」へ変更。

【令和元年度】

- ・辞任の理由により、「フレッシュワーカーセミナー」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授4」に変更。
- ・辞任の理由により、「経済学入門」の兼任・兼担の配置を「2」から「1」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康の科学」の兼任・兼担の配置を「2」から「1」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康・スポーツ1」の兼任・兼担の配置を「3」から「2」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康・スポーツ2」の兼任・兼担の配置を「3」から「2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」へ、「講師0」から「講師2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅱ（コミュニケーション）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師3」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師2」から「講師3」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅳ（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅴ（診療補助技術）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅵ（看護過程）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師2」へ、変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅳ（看護過程）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師4」から「講師5」に変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「助教5」から「助教2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師4」から「講師5」に変更。
- ・辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「助教5」から「助教2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「生涯発達看護学（成人）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」へ、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人概論）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・急性期）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」へ、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・急性期）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・周手術期）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・慢性期）」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・回復終末期）」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（成人）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（老年援助）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（老年）1」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（老年）2」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学（母性援助）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（母性）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（小児）」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）1」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）2」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅概論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅援助）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・辞任の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・辞任の理由により、「チーム医療」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・辞任の理由により、「災害看護演習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「リハビリテーション看護論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・辞任の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教5」から「助教2」に変更。
- ・辞任の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教5」から「助教2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師7」に変更。
- ・辞任の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」へ、「助教5」から「助教0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」に変更。
- ・辞任の理由により、「看護研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護研究」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・辞任の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授8」から「教授6」へ、「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師6」に変更。
- ・辞任の理由により、「公衆衛生看護学概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「公衆衛生看護学方法論1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「公衆衛生看護学方法論2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「公衆衛生看護学活動論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「学校保健・産業保健」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「公衆衛生看護学管理論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「公衆衛生看護学実習A」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・辞任の理由により、「公衆衛生看護学実習B」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。

【令和2年度】

- ・教員補充の理由により、「フレッシュヤーズセミナー」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授3」に変更。
- ・教員補充の理由により、「フレッシュヤーズセミナー」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・「英語B1」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」（共同担当教員がいるため支障はない）。
- ・「英語B2」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」（共同担当教員がいるため支障はない）。
- ・「災害からの復興」の兼任・兼担の配置を、平成30年度（追加事項）から「兼任・兼担4」、令和2年度から「兼任・兼担3」（共同担当教員がいるため支障はない）。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師4」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「助教2」から「講師3」に変更。
- ・「看護実践基盤学Ⅵ（看護過程）」の兼任・兼担の配置を、令和元年度（追加事項）「兼任・兼担1」から「兼任・兼担0」（共同担当教員がいるため支障はない）。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」専任教員等の配置を「講師5」から「講師4」に変更（共同担当教員がいるため支障はない）。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」専任教員等の配置を「助教5」から「講師3」に変更（共同担当教員がいるため支障はない）。
- ・教員退職の理由により、「生涯発達看護学（老年）」専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「生涯発達看護学（老年概論）」専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学（老年援助）」専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学実習（老年）1」専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更（共同担当教員がいるため支障はない）。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学実習（老年）2」専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学実習（老年）2」専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（小児援助）」専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学実習（小児）」専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学（精神概論）1」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）1」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）2」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神援助）」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学実習（精神）」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「チーム医療」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護学シミュレーション」専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護学シミュレーション」専任教員の配置を「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「災害看護」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「災害看護」専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「災害看護」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「災害看護演習」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「災害看護演習」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「講師4」から「講師5」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を、平成30年度（追加事項）「助教5」から「助教3」。
- ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を、令和元年度（追加事項）「助教3」から「助教0」。
- ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「助教0」から「助教2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護学統合演習」専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護学統合演習」専任教員の配置を「准教授1」から「准教授3」に変更。
- ・教員補充の理由により、「看護学統合演習」専任教員の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・教員補充の理由により、「卒業研究」専任教員の配置を「准教授2」から「准教授4」に変更。
- ・教員補充の理由により、「卒業研究」専任教員の配置を「講師6」から「講師7」に変更。
- ・教員補充の理由により、「卒業研究」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「緩和ケア」専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・「自然科学のあゆみ」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担1」。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学概論」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「学校保健・産業保健」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学方法論1」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学方法論1」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学方法論2」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学活動論」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・教員退職の理由により、「公衆衛生看護学活動論」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学管理論」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学実習A」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・教員退職の理由により、「公衆衛生看護学実習A」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学実習B」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・教員退職の理由により、「公衆衛生看護学実習B」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。

【令和3年度】

- ・教員退職および異動の理由により、「フレッシュヤーズセミナー」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授0」に、「講師5」から「講師4」に、「助教2」から「助教1」にそれぞれ変更。
- ・「芸術の世界」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・「文学の世界」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・「自然科学のあゆみ」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・「食品の科学」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担2」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・教員退職の理由により、「人体の構造と機能1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼担の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」にそれぞれ変更。
- ・教員退職の理由により、「薬理学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学Ⅱ（コミュニケーション）」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師2」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学Ⅳ（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師0」に変更。
- ・教員退職・補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅴ（診療補助技術）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師0」に、兼任・兼担の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担2」にそれぞれ変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学Ⅵ（看護過程）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師0」に変更。
- ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に、「助教3」から「助教2」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に、「助教3」から「助教2」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および補充の理由により、「生涯発達看護学（老年）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、「講師1」から「講師0」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および補充の理由により、「健康生活看護学（老年概論）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、「講師1」から「講師0」にそれぞれ変更。
- ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（老年援助）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学実習（老年）1」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学実習（老年）2」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・教員異動の理由により、「健康生活看護学（母性援助）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「健康生活看護学実習（母性）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に、「助教1」から「助教0」にそれぞれ変更。
- ・教員異動の理由により、「生涯発達看護学（小児）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼担の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」にそれぞれ変更。
- ・教員異動の理由により、「健康生活看護学（小児概論）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼担の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「健康生活看護学（小児援助）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、「助教2」から「助教1」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「健康生活看護学実習（小児）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、「助教2」から「助教1」にそれぞれ変更。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学（精神概論）1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教員退職の理由により、「健康生活看護学（精神概論）2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教員退職および補充の理由により、「健康生活看護学（精神援助）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、「助教0」から「助教1」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および補充の理由により、「健康生活看護学実習（精神）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、「助教0」から「助教1」にそれぞれ変更。
- ・教員異動の理由により、「地域養生看護学（在宅概論）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼担の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、「講師1」から「講師0」に、「助教1」から「助教0」にそれぞれ変更。
- ・教員退職の理由により、「チーム医療」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教員異動の理由により、「看護マネジメント」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教員異動の理由により、「国際看護活動論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」に変更。
- ・教員異動の理由により、「訪問看護マネジメント」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「緩和ケア」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」に変更。
- ・教員退職および異動ならびに補充の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に、「講師6」から「講師4」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および異動ならびに補充の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に、「講師7」から「講師4」に、「助教3」から「助教2」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に、「講師5」から「講師3」にそれぞれ変更。
- ・教員退職および異動の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授2」に、「講師7」から「講師4」にそれぞれ変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護方法論1」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学実習A」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学実習B」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	33 科目	8 科目	116 科目	— 科目 [—]	— 科目 [—]	— 科目 [—]	— 科目 [—]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、 [] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{116} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積： 9,460.02㎡		
	校舎敷地	126,160.57㎡ 123,105.00㎡ 145,860㎡	0㎡	0㎡	126,160.57㎡ 123,105.00㎡ 145,860㎡	令和3年4月 国際看護学部開設に伴う用 途変更のため(3)		
	運動場用地	25,426.87㎡ 23,800.00㎡ 53,000㎡	0㎡	0㎡	25,426.87㎡ 23,800.00㎡ 53,000㎡	平成30年4月 用途変更のため(30) 平成29年4月 用途変更のため(29)		
	小 計	151,587.44㎡ 146,905.00㎡ 198,860㎡	0㎡	0㎡	151,587.44㎡ 146,905.00㎡ 198,860㎡			
	そ の 他	316,871.27㎡ 309,448.86㎡ 264,767㎡ 257,494㎡	0㎡	0㎡	316,871.27㎡ 309,448.86㎡ 264,767㎡ 257,494㎡			
	合 計	468,458.71㎡ 456,353.86㎡ 463,627㎡ 456,354㎡	0㎡	0㎡	468,458.71㎡ 456,353.86㎡ 463,627㎡ 456,354㎡			
(2) 校 舎	専 用	53,500.33㎡ 44,822.15㎡ 44,165.15㎡ 44,652㎡	0㎡	0㎡	53,500.33㎡ 44,822.15㎡ 44,165.15㎡ 44,652㎡	大学全体 借用面積： 1,278.85㎡ 英会館看護専門学校と共用 令和3年4月 国際看護学部開設に伴う用 途変更のため(3)		
	(47,556.87㎡) (44,822.15㎡) (44,165.15㎡) (44,652㎡)	(5,203.52㎡)	(739.94㎡)	(53,500.33㎡) (44,822.15㎡) (44,165.15㎡) (44,652㎡)	令和2年4月 心理学部設置に伴う用途変 更のため(2) 平成30年4月 用途変更のため(30)			
(3) 教 室 等	講 義 室	41 室 40 室	演 習 室 32 室 10 室 31 室	実験実習室 124 室 121 室 81 室 105 室	情報処理学習施設 3 室 (補助職員 1人)	語学学習施設 1 室 (補助職員 人)	いわきキャンパス 大学全体 令和2年4月 心理学部及び生命理工学研 究科設置に伴う用途変更の ため(2) 平成30年4月 用途変更のため(30) 平成29年4月 用途変更のため(29)	
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 看護学部 看護学科		室 数 32 33 室		平成30年4月 用途変更のため(30)	
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	平成31年4月 図書・機械・器具設置(元) 平成30年4月 図書・機械・器具設置(30) 平成29年4月 機械・器具設置(29)
	看護学部	3,000 [400] 3,375 [405] (3,000 [400]) (3,261 [343]) (2,665 [285])	29 [10] 22 [5] (29 [10]) (22 [5])	5 [5] (5 [5]) (0 [0])	75 (75) (124) (50)	725 (725) (683) (672)	19 29 19 (30) (19)	
	計	3,000 [400] 3,375 [405] (3,000 [400]) (3,261 [343]) (2,665 [285])	29 [10] 22 [5] (29 [10]) (22 [5])	5 [5] (5 [5]) (0 [0])	75 (75) (124) (50)	725 (725) (683) (672)	19 29 19 (30) (19)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		いわきキャンパス 大学全体 平成31年4月 用途変更のため(元) 平成30年4月 用途変更のため(30)		
	5,052.81㎡ 5,109.81㎡ 4,917㎡		448 438 442	288,000 288,500				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			いわきキャンパス 大学全体		
	4,513.16㎡		陸上競技場1面、野球場1面、テニスコート10面					

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	150千円	150千円	図書購入費	15,560千円	9,935千円	6,398千円
	共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	86,116千円	0千円	0千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次 1,800千円	第 2 年次 1,500千円	第 3 年次 1,500千円	第 4 年次 1,500千円	第 5 年次 - 千円	第 6 年次 - 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号（その 1 の 1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和 3 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（2）」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	医療創生大学						学生募集停止学科数	5	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(学部) 人文学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	—	—	平成13年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止
薬学部	6	90	—	540	—	0.76	0.67	—	平成19年度	—	
薬学科	6	90	—	540	学士 (薬学)	0.76	0.67	—	平成19年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成23年4月より 入学定員変更 (薬学科150→90)
教養学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域教養学科	4	—	—	—	学士 (教養)	—	—	—	平成27年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成31年4月より 学生募集停止
看護学部	4	80	—	320	—	1.05	1.03	—	平成29年度	—	
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.05	1.03	—	平成29年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
健康医療科学部	4	100	—	400	—	0.95	0.98	—	平成31年度	—	
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.66	0.55	—	平成31年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
理学療法学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.13	1.26	—	平成31年度	同上	
心理学部	4	60	—	240	—	0.57	0.58	—	令和2年度	—	
臨床心理学科	4	60	—	240	学士 (心理学)	0.57	0.58	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
国際看護学部	4	80	—	320	—	1.10	1.10	—	令和3年度	—	
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.10	1.10	—	令和3年度	千葉県柏市小青田 1-3-4	
大学全体	—	410	—	1,820	—	—	—	—	—	—	

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・藤岡寛教授就任辞任。後任未定であるが、平成30年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・鈴木裕子講師就任辞任。後任未定であるが、平成30年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・片寄泰子助教就任辞任。後任未定であるが、平成30年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・齋小榕兼担教授辞任。兼任講師として新たに採用。
- ・中尾剛兼担教授、教授へ昇格。
- ・川井一枝兼担教授辞任。他に担当教員がいるため支障はない。
- ・菅野昌史兼担教授、教授へ昇格。
- ・吉川真一兼担教授、教授へ昇格。
- ・佐藤拓兼担助教、准教授へ昇格。

【平成30年度】

- ・藤岡寛教授就任辞任に伴う後任について、平成30年10月から専任教員採用予定で公募中。
- ・鈴木裕子講師就任辞任に伴う後任について、平成30年4月より、後藤恭一講師就任。平成30年1月教員審査済み。
- ・片寄泰子助教就任辞任に伴う後任について、平成30年10月から専任教員採用予定で公募中。
- ・鈴木祐子助教、平成30年4月より、職位変更並びに担当科目の追加。平成29年11月教員審査済み。（講師）（健康生活看護学（精神援助）、健康生活看護学実習（精神））
- ・臼井千津教授辞任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・古地順子教授辞任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・荒井春生教授辞任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・山邊素子准教授辞任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・丸山恵子助教辞任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・教育内容充実の理由により、林正幸教授の担当科目の一部を後藤恭一講師へ変更。（公衆衛生学、保健統計学、疫学）
- ・教育内容充実の理由により、山崎洋次兼担教授を佐藤龍昌兼担教授へ変更。
- ・藤岡寛教授就任辞任の理由により、担当科目の一部をレンデンマン美智子教授へ変更。平成29年11月教員審査済み。（健康生活看護学（小児概論））
- ・菊池武兼担教授辞任に伴い、ティモシーック兼担教授へ変更。
- ・教育内容充実の理由により、齋小榕兼任講師の担当科目の一部を吉田健一兼任講師へ変更（中国語1、中国語2）。
- ・金成綾兼任講師辞任の理由により、金世煥兼担教授へ変更。
- ・奥村賢兼担教授辞任。兼任講師として新たに採用。
- ・吉村忠晴兼任講師辞任の理由により、大嶋淳俊兼担教授、田中美和兼担教授へ変更。
- ・和足憲明兼担助教、講師へ昇格。
- ・中田芳幸兼担教授辞任の理由により、荻原久佳兼担教授、高橋義孝兼担教授へ変更。
- ・永田隆之兼担助教、准教授へ昇格。
- ・佐藤拓兼担教授辞任の理由により、山田貴浩兼任講師へ変更。
- ・岩田憲理兼担教授辞任の理由により、菊池雄士兼担教授、片桐拓也兼担教授、奈良武司兼担教授、江藤忠洋兼担教授、久保田耕司兼担助教へ変更。
- ・佐藤陽兼担助教、准教授へ昇格。
- ・梅津実兼任講師辞任の理由により、山田貴浩兼任講師へ変更。

【令和元年度】

- ・平成31年1月、大堀昇教授就任。平成30年11月教員審査済み。
- ・平成30年7月及び9月、狩谷森子准教授担当科目追加。平成30年4月教員審査済み。（「生涯発達看護学（成人）」、「健康生活看護学（成人概論）」、「健康生活看護学（成人・急性期）」、「健康生活看護学（成人・周手術期）」、「看護実践基礎学Ⅰ（看護学原論）」、「看護実践基礎学Ⅱ（コミュニケーション）」）
- ・平成30年7月及び9月、松山定美講師授業担当科目追加。平成30年4月教員審査済み。（「看護実践基礎学Ⅰ（看護学原論）」、「看護実践基礎学Ⅱ（コミュニケーション）」、「生涯発達看護学（成人）」、「健康生活看護学（成人・急性期）」、「健康生活看護学（成人・慢性期）」、「健康生活看護学（成人・回復終末期）」）
- ・平成30年9月、矢澤香代子講師就任。平成30年7月教員審査済み。
- ・平成30年7月及び9月、鈴木祐子講師授業担当科目追加。平成30年4月教員審査済み。（「看護実践基礎学Ⅰ（看護学原論）」、「健康生活看護学（精神概論）1」、「健康生活看護学（精神概論）2」）
- ・福田幸夫兼担教授辞任により、鎌田真理子兼担教授に変更。（「社会福祉学」、「保健医療福祉行政論」、「チーム医療」）
- ・奥村賢兼任講師辞任により、久島高之兼担教授に変更。（「芸術の世界」）
- ・山口憲二兼担教授の担当科目を金世煥兼担教授に変更。（「経営学入門」）
- ・大嶋淳俊兼担教授辞任により、山口憲二兼担教授に変更。（「経済学入門」）
- ・能地克宜兼担教授辞任により、帆苅基生兼任講師に変更。（「文学の世界」）
- ・松本麻子兼担教授、教授へ昇格。
- ・大津理香兼担教授辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・田中美和兼担教授辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・和足憲明兼担助教辞任により、菅野昌史兼担教授へ変更。（「暮らしのなかの憲法」）
- ・和足憲明兼担助教辞任により、阿部慶徳兼任講師へ変更。（「政治学入門」）
- ・齋小榕兼任講師辞任により、野村光義兼任講師へ変更。（「世界の歴史と文化」）
- ・大島弓子兼任講師辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・柴野照夫兼任講師辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・千葉陽子兼任講師辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）

【令和2年度】

- ・令和2年3月、橋本知子教授 退職（「フレッシュャーズセミナー」、「生涯発達看護学(老年)」、「健康生活看護学(老年概論)」、「健康生活看護学実習(老年)1」「健康生活看護学実習(老年)2」、「卒業研究」）
- ・令和2年3月、鈴木直子講師 退職（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基礎学Ⅰ（看護学原論）」、「看護実践基礎学実習(基礎)1」、「看護実践基礎学実習(基礎)2」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「公衆衛生看護方法論1」、「公衆衛生看護活動論」、「公衆衛生看護学実習A」、「公衆衛生看護学実習B」）
- ・令和2年3月、鈴木祐子講師 退職（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基礎学実習(基礎)1」、「看護実践基礎学実習(基礎)2」、「健康生活看護学(精神概論)1」、「健康生活看護学(精神概論)2」、「災害看護演習」、「看護援助技術レファレンス」、「看護学統合実習」）
- ・令和元年7月、茂木康子教授 授業担当科目追加。令和元年6月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基礎学Ⅰ（看護学原論）」、「健康生活看護学(精神概論)1」、「健康生活看護学(精神概論)2」、「健康生活看護学(精神援助)」、「健康生活看護学実習(精神)」、「チーム医療」、「看護学シミュレーション」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「緩和ケア」）
- ・令和元年9月、稲毛映子准教授 授業担当科目追加。令和元年6月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「災害看護」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「公衆衛生看護学概論」、「学校保健・産業保健」、「公衆衛生看護方法論1」、「公衆衛生看護方法論2」、「公衆衛生看護活動論」、「公衆衛生看護管理論」、「公衆衛生看護学実習A」、「公衆衛生看護学実習B」）
- ・令和2年4月、後藤雪絵専任講師 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「生涯発達看護学(老年)」、「健康生活看護学(老年概論)」、「健康生活看護学実習(老年)1」「健康生活看護学実習(老年)2」、「看護学統合実習」、「卒業研究」）
- ・令和2年4月、吉田和樹准教授 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「地域養生看護学実習(在宅)」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「公衆衛生看護方法論1」、「公衆衛生看護方法論2」、「公衆衛生看護活動論」、「公衆衛生看護学実習A」、「公衆衛生看護学実習B」）
- ・令和2年4月、野崎裕之講師 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基礎学実習(基礎)1」、「看護実践基礎学実習(基礎)2」、「健康生活看護学(精神概論)2」、「健康生活看護学(精神援助)」、「健康生活看護学実習(精神)」、「災害看護」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」、「卒業研究」）
- ・令和2年4月、小野寺悦子助教 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基礎学実習(基礎)1」、「看護実践基礎学実習(基礎)2」、「健康生活看護学(小児援助)」、「健康生活看護学実習(小児)」、「災害看護」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」）
- ・令和2年4月、河田眞理子助教 授業担当科目追加。令和元年6月教員審査済み。（「地域養生看護学実習(在宅)」、「看護援助技術レファレンス」、「卒業研究」）
- ・狩谷恭子准教授 科目追加（平成30年より）は記載誤り、実際の担当もなし（「看護実践基礎学Ⅰ（看護学原論）」、「看護実践基礎学Ⅱ（コミュニケーション）」）。
- ・松本麻子兼任教授、辞任により、中島清州兼任教授に変更。（「日本語リテラシー」）
- ・西村康平兼任教授、辞任により、野村光義兼任講師に変更。（「日本語リテラシー」）
- ・能地克宜兼任教授、辞任により、玉懸元兼任教授に変更（令和元年より）。（「日本語リテラシー」）
- ・高橋義孝兼任教授、辞任により、斐鍾民兼任講師に変更。（「コンピュータリテラシー」）
- ・西村康平兼任教授、辞任により、勅使河原智子兼任講師、亀岡浩一兼任講師に変更。（「英語A1」、「英語A2」）
- ・西村康平兼任教授、辞任により、亀岡浩一兼任講師に変更。（「英語C1」、「英語C2」）
- ・西村康平兼任教授、辞任により、野村光義兼任講師に変更。（「ことばの科学」）
- ・菊池真弓兼任教授、辞任により、菅野昌史兼任教授に変更。（「社会学入門」）
- ・菊池真弓兼任教授、辞任により、令和2年度休講。（「ジェンダー論」）
- ・高橋義孝兼任教授 退職。（「自然科学のあゆみ」）
- ・久保田耕司兼任助教、辞任により、丹治貴博准教授に変更。（「生命の科学」）
- ・中田芳幸兼任教授辞任、「災害からの復興」（平成30年度追加事項）。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・林洋一兼任教授辞任、「災害からの復興」。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・柴野照夫兼任講師辞任により、安井清孝兼任講師へ変更。（「放射線と人体」）

【令和3年度】

- ・鹿児島正豊教授が退職。兼任講師に就任。
- ・鹿児島正豊教授の退職により、授業科目担当者（「人体の構造と機能1」「人体の構造と機能2」）を佐藤龍昌兼任教授に変更。
- ・レンテンマン美智子教授が本学柏キャンパスに異動。
- ・スーディ神崎和代教授が本学柏キャンパスに異動。
- ・茂木泰子教授が退職。
- ・稲毛映子准教授の担当授業科目（「卒業研究」：令和元年6月教員審査済）を追加。
- ・木部美知子講師が退職。兼任講師に就任。
- ・瀬戸愛子講師が本学柏キャンパスに異動。
- ・矢澤香代子講師が退職。兼任講師に就任。
- ・後藤雪絵講師が退職。
- ・野崎裕之講師の担当授業科目（「卒業研究」：令和元年11月教員審査済）を追加。
- ・三戸部純子講師が就任（令和2年5月教員審査済）。
- ・木村奈緒助教が本学柏キャンパスに異動。
- ・河田眞理子助教が退職。
- ・開講クラス削減により、小池久恵兼任教授の担当授業科目（「英語C1」「英語C2」）を削除。
- ・堀名敬一兼任教授の退職により、授業科目担当者（「食品の科学」）に堀一之兼任教授および川崎靖兼准教授を追加。
- ・授業科目担当者（「生命の科学」）より、片桐拓也兼任教授および奈良武司兼任教授を削除。
- ・菊池真弓兼任教授の退職（令和元年度）により、授業科目担当者（「ジェンダー論」）を鎌田真理子兼任教授に変更。
- ・玉懸元兼任教授が退職。兼任講師に就任。
- ・玉懸元兼任教授の退職により、授業科目担当者（「日本語リテラシー」）に久呉高之兼任教授および姜惠彬兼任教授を追加。
- ・金世煥兼任教授が教授に昇格。
- ・佐藤健二兼任講師の辞任により、授業科目担当者（「放射線と環境」）を安井清孝兼任講師に変更。
- ・帆刈基生兼任講師の辞任により、授業科目担当者（「文学の世界」）を姜惠彬兼任教授に変更。
- ・教育内容のさらなる充実を図るため、授業科目担当者（「芸術の世界」）に野村光義兼任講師を追加。

- (注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
12	5	5	8	30	5	3	4	5	2	14	6
(11)	(5)	(4)	(7)	(27)	(5)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
3	4	5	2	14	6	3	4	5	2	14	6
[△9]	[△1]	[0]	[△6]	[△16]	[1]	[△9]	[△1]	[0]	[△6]	[△16]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{14}{30} = \boxed{46.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{14} = \boxed{7.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{6}{5} = \boxed{120} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	藤岡 寛	H29.3	必修	生涯発達看護学（小児）	①	H29.3 私事都合のため就任辞退（29）						
				必修	健康生活看護学（小児概論）	①							
				必修	健康生活看護学（小児援助）	①							
				必修	健康生活看護学実習（小児）	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	看護援助技術レファレンス	①							
				必修	卒業研究	①							
2	講師	鈴木 裕子	H29.3	必修	看護実践基礎学実習（基礎）1	①	H29.3 私事都合のため就任辞退（29）						
				必修	看護実践基礎学実習（基礎）2	①							
				必修	地域養生看護学（在宅援助）	①							
				必修	地域養生看護学実習（在宅）	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	卒業研究	①							
				自由	公衆衛生看護学方法論2	①							
自由	公衆衛生看護学実習A	①											
自由	公衆衛生看護学実習B	①											
3	助教	片寄 泰子	H29.3	必修	看護実践基礎学実習（基礎）1	①	H29.3 私事都合のため就任辞退（29）						
				必修	看護実践基礎学実習（基礎）2	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	看護援助技術レファレンス	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
3	人	必修	20	科目	必修	20	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	3	科目	自由	3	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	23	科目	計	23	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	臼井 千津	H30.3	必修	生涯発達看護学(成人)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	健康生活看護学(成人概論)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・急性期)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・周手術期)	①	
				必修	健康生活看護学実習(成人)	①	
				必修	地域養生看護学(在宅概論)	①	
				必修	地域養生看護学(在宅援助)	①	
				必修	災害看護	①	
				必修	災害看護演習	①	
				必修	訪問看護マネジメント	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
必修	卒業研究	①					
2	教授	古地 順子	H30.3	必修	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
				必修	生涯発達看護学(成人)	①	
				必修	健康生活看護学(成人概論)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・慢性期)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・回復終末期)	①	
				必修	健康生活看護学実習(成人)	①	
				選択	リハビリテーション看護論	①	
必修	卒業研究	①					
3	教授	荒井 春生	H30.3	必修	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	①	
				必修	健康生活看護学(精神概論)1	①	
				必修	健康生活看護学(精神概論)2	①	
				必修	健康生活看護学(精神援助)	①	
				必修	健康生活看護学実習(精神)	①	
				必修	チーム医療	①	
選択	緩和ケア	①					
必修	卒業研究	①					
4	准教授	山邊 素子	H30.3	必修	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	①	
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)1	①	
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)2	①	
				必修	看護研究	①	
				必修	卒業研究	①	
5	助教	丸山 恵子	H30.3	必修	フレッシュヤーズセミナー	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	①	
				必修	看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	①	
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)1	①	
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)2	①	
				必修	健康生活看護学実習(成人)	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
必修	看護援助技術レファレンス	①					
6	教授	林 正幸	H31.3	必修	フレッシュヤーズセミナー	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任(元)
				必修	災害看護演習	①	
				必修	卒業研究	①	

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
7	教授	小林 紀明	H31.3	必修	フレッシュャーズセミナー	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	健康生活看護学実習（老年）1	①	
				必修	健康生活看護学実習（老年）2	①	
				必修	地域養生看護学（在宅概論）	①	
				必修	地域養生看護学（在宅援助）	①	
				必修	地域養生看護学実習（在宅）	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
8	教授	黒田 真理子	H31.3	必修	看護学シミュレーション	①	H31.3.31付け死亡により辞任（元）
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	卒業研究	①	
				自由	公衆衛生看護学概論	①	
				自由	公衆衛生看護学方法論1	①	
				自由	公衆衛生看護学方法論2	①	
				自由	公衆衛生看護学活動論	①	
				自由	学校保健・産業保健	①	
				自由	公衆衛生看護学管理論	①	
				自由	公衆衛生看護学実習A	①	
9	准教授	大内 隆	H30.7	必修	健康生活看護学（老年援助）	①	H30.7.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	健康生活看護学実習（老年）1	①	
				必修	健康生活看護学実習（老年）2	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
				必修	卒業研究	①	
10	助教	柴崎 真澄	H31.3	必修	看護実践基盤学VI（看護過程）	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	
				必修	健康生活看護学（成人・急性期）	①	
				必修	健康生活看護学実習（成人）	①	
				必修	チーム医療	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
11	助教	池田 真由美	H31.3	必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	
				必修	健康生活看護学（母性援助）	①	
				必修	健康生活看護学実習（母性）	①	
				必修	健康生活看護学実習（小児）	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
12	助教	大河内 敦子	H31.3	必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	
				必修	健康生活看護学実習（精神）	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
13	教授	橋本 知子	R2.3	必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	R2.3.31付け私事都合のため辞任（2）
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	
				必修	健康生活看護学（老年）	①	
				必修	健康生活看護学（老年概論）	①	
				必修	健康生活看護学（老年援助）	①	
				必修	卒業研究	①	

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
14	講師	鈴木 直子	R2.3	必修	フレッシューズセミナー	①	R2.3.31付け私事都合のため辞任(2)						
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)1	①							
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)2	①							
				必修	健康生活看護学実習(老年)1	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	卒業研究	①							
				自由	公衆衛生看護方法論1	①							
				自由	公衆衛生看護活動論	①							
				自由	公衆衛生看護学実習A	①							
自由	公衆衛生看護学実習B	①											
15	講師	鈴木 祐子	R2.3	必修	フレッシューズセミナー	①	R2.3.31付け私事都合のため辞任(2)						
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)1	①							
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)2	①							
				必修	災害看護演習	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	看護援助技術レファレンス	①							
				必修	健康生活看護学(精神援助)	①							
				必修	健康生活看護学実習(精神)	①							
				必修	看護実践基礎学I(看護学原論)	①							
必修	健康生活看護学(精神概論)1	①											
必修	健康生活看護学(精神概論)2	①											
16	講師	後藤 雪絵	R2.10	必修	フレッシューズセミナー	①	R2.10.31付け私事都合のため辞任(3)						
				必修	生涯発達看護学(老年)	①							
				必修	健康生活看護学(老年概論)	①							
				必修	健康生活看護学(老年援助)	①							
				必修	健康生活看護学実習(老年)1	①							
				必修	健康生活看護学実習(老年)2	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護援助技術レファレンス	①							
17	助教	河田 真理子	R3.3	必修	看護実践基礎学実習(基礎)1	①	R3.3.31付け私事都合のため辞任(3)						
				必修	看護実践基礎学実習(基礎)2	①							
				必修	健康生活看護学実習(母性)	①							
				必修	健康生活看護学(小児援助)	①							
				必修	健康生活看護学実習(小児)	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	看護援助技術レファレンス	①							
合計(F)					後任補充状況の集計(G)								
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)						
17	人	必修	145	科目	必修	145	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	12	科目	自由	12	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	159	科目	計	159	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
20 人	必修	165 科目	必修	165 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	15 科目	自由	15 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	182 科目	計	182 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{20}{30} = \boxed{66.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	鹿児島 正豊	必修	フレッシュアーズセミナー	①	R3.3.31付けで定年退職(3)
			必修	人体の構造と機能1	②	
			必修	人体の構造と機能2	②	
			必修	薬理学	①	
			必修	卒業研究	①	
2	教授	茂木 泰子	必修	フレッシュアーズセミナー	①	R3.3.31付けで定年退職(3)
			必修	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	①	
			必修	健康生活看護学(精神概論)1	③	
			必修	健康生活看護学(精神概論)2	①	
			必修	健康生活看護学(精神援助)	①	
			必修	健康生活看護学実習(精神)	①	
			必修	チーム医療	①	
			必修	看護学シミュレーション	①	
			必修	看護援助技術レファレンス	①	
			必修	看護学統合実習	①	
			必修	卒業研究	①	
			選択	緩和ケア	①	
			3	講師	木部 美知子	
必修	看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	①				
必修	看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	①				
必修	看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	①				
必修	看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	①				
必修	看護実践基礎学実習(基礎)1	①				
必修	看護実践基礎学実習(基礎)2	①				
必修	健康生活看護学実習(老年)1	①				
必修	健康生活看護学実習(老年)2	①				
必修	地域養生看護学実習(在宅)	①				
必修	看護学シミュレーション	①				
必修	看護学統合実習	①				
必修	卒業研究	①				
4	講師	矢澤 香代子	必修	看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	①	R3.3.31付けで定年退職(3)
			必修	看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	①	
			必修	看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	①	
			必修	看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	①	
			必修	看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	①	
			必修	看護実践基礎学実習(基礎)1	①	
			必修	看護実践基礎学実習(基礎)2	①	
			必修	看護学統合実習	①	
			必修	看護援助技術レファレンス	①	
			必修	卒業研究	①	

合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
4 人	必修	39 科目	必修	36 科目	必修	2 科目	必修	1 科目
	選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	40 科目	計	37 科目	計	2 科目	計	1 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>専任教員の交代に関しては、止むを得ない理由と認識しており、教育内容、効果の低下を招かないよう後任の補充を行っている。学生に対しては、シラバス及び期首のオリエンテーション等において周知を図っている。</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年)</p>	<p>2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>地域養生看護学（在宅援助）については、現任教員で十分な教育を行っているため特に支障はない。 なお、令和3年5月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。</p> <p>(3)</p>	<p>今後も、当該領域の教員が継続して教員の確保に努めていく。</p> <p>(3)</p>
<p>認 可 時 (平成28年)</p>	<p>3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>法人の経営委員会人事検討部会について、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を実施しており、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、看護学部人事選考委員会において、退職教員の補充及び新規採用について、教員組織の年齢構成に留意した採用に努めている。</p> <p>(2)</p>	<p>法人の経営委員会人事部会において、毎年、教員補充についての検討を行っていく。中期的には看護学部完成年度までに、各専門領域における教員組織編制の将来構想について検討していく。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、継続して教員補充について検討していく。また、各専門領域における教員組織編制の将来構想についても併せて検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>継続して、教員人事在り方検討委員会にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めていく。 看護学部人事選考委員会にて、継続して年齢構成に留意した教員補充について検討していく。</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年)</p>	<p>3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、看護学部人事選考委員会において、退職教員の補充及び新規採用について、教員組織の年齢構成に留意した採用に努めている。 (3)</p>	<p>履行中</p>	<p>継続して、教員人事在り方検討委員会にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めていく。 看護学部人事選考委員会にて、継続して年齢構成に留意した教員補充について検討していく。 (3)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)</p>	<p>該当なし</p>				
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年)</p>	<p>1. 専任教員数が認可時の計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するよう努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会を立ち上げ、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募し、確実に履行するよう努めている。 (元)</p> <p>着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会にて、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募しており、確実に履行するよう努めている。 (2)</p> <p>就任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会にて、随時検討している。また、本学教員の人脈を通じた採用活動を実施し、教員の採用計画を確実に履行するよう努めている。 さらに、看護学部内に辞任対策プロジェクトを立ち上げ、就任辞退、退職の原因分析と改善策を検討している。 (3)</p>	<p>履行中</p>	<p>今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募し、確実に履行するよう努める。 (元)</p> <p>今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 (2)</p> <p>今後は、本学教員の人脈を通じた採用活動と併せて、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalへの公募を随時実施し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 また、看護学部内の辞任対策プロジェクトで検討した就任辞退、退職に対する改善策を実施していく。 (3)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今 後 の 実 施 計 画
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	1. 専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行し、教員組織の充実に努めるとともに、教員の入れ換えに当たっても、教員体制の継続性の担保に努めること。	指摘事項 (改善)	各領域ごとの教員補充状況にバラツキがあるため、バランスよく教員補充ができるように努力している。 また、教員体制の継続性の担保に関しては、広い範囲で各教員の担当科目を見直し教員配置が出来るように努めている。 (2)	履行中	今後も、領域ごとにバランスよく教員補充ができるように努めていく。 また、学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性を担保していく。 (2)
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	1. 専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行し、教員組織の充実に努めるとともに、教員の入れ換えに当たっても、教員体制の継続性の担保に努めること。	指摘事項 (改善)	領域ごとの教員補充状況にバラツキがあるため、バランスよく教員補充ができるように努力し、本学教員の人脈を通じた採用活動を実施し、教員の採用計画を確実に履行するよう努めている。 また、教員体制の継続性の担保に関しては、各教員の担当科目を見直し、教員配置が出来るように努めている。 (3)	履行中	今後も継続して、領域ごとにバランスよく教員補充ができるように努めていく。 また、学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性を担保していく。 (3)
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	2. 実習科目や演習科目をはじめとして、教員の指導体制の充実を図り、学生に対するきめ細やかな履修指導を行うとともに、学生に対する履修情報の周知・徹底に努めること。	指摘事項 (改善)	履修の手引を学生に分かりやすく内容を修正し、それを用いて各学年主任が丁寧に履修指導を実施している。 また、別途指導が必要な学生には、チューターが個別指導に努めている。 (2) 履修の手引や実習要項を基に、学部内委員会の委員長がガイダンス等で分かりやすく、丁寧に説明している。 また、学年主任やチューター等が、グループや個別の履修指導において、繰り返し履修情報を確認する等、指導体制を整え、周知の徹底を図っている。 (3)	履行済	実習委員長、領域の実習責任者、担当教員の組織体制を充実させる。 また、学生に対してきめ細やかな履修指導ができるよう、履修の手引等による周知を徹底させる。 (2) (3)

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1. 当初計画に対する専任教員の充足率が70.00%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和2年5月1日現在における専任教員の充足率は70.00%（21名/30名）であったが、令和2年3月のAC教員審査に3名（教員組織を充実させるために新規教員採用3名）を諮り、令和2年6月に教授1名、助教1名、令和3年1月に教授1名が専任教員として着任した。</p> <p>また、令和2年6月のAC教員審査に1名（教員組織を充実させるために新規教員採用1名）を諮り、令和2年9月に助教1名が専任教員として着任し、一時、充足率83.33%（25名/30名）となったものの、講師1名が一身上の都合により退職したため、令和3年1月現在の充足率は80.00%（24名/30名）の状況である。</p> <p>就任辞退や途中退職の教員補充については、当初の人事計画を遂行すべく、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて適宜公募し、AC教員審査に諮り、6名の採用を得ることができた。</p> <p>しかし、公募だけでは、東日本大震災に係る福島第一原子力発電所事故による影響等の要因から、子育て世代や若手世代の教員からの応募が少なく、本学の希望する年齢層の教員の補充が困難であった。そのため、本学教員の人脈を通じて採用活動をした結果、これまでに6名採用することができた。</p> <p>今後も本学ホームページ等による公募と併せて、本学教員の人脈を通じた採用活動を継続して実施する。</p> <p>なお、欠員となった教員の担当予定授業科目については、教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>今後も本学ホームページ等による公募と併せて、本学教員の人脈を通じた採用活動を継続して実施し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1. 当初計画に対する専任教員の充足率が70.00%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和3年5月1日現在における専任教員の充足率は、定年退職や令和3年4月に開設した国際看護学部への異動に伴い、46.66%（14名/30名）の状況である。 教員組織を充実させ、教育・研究活動を保障するため、令和3年5月のAC教員審査に候補者5名（新規教員採用5名（教授2名、准教授1名、講師2名））を諮る予定である。 また、学生の学修を第一に考え、臨時的に非常勤講師5名を登用し、教育に支障のないよう対応している。かつ、同学部の教員に担当科目を追加し、授業が適切に開講できるよう令和3年5月のAC教員審査に諮る予定である。 なお、これまでに欠員となった教員の担当予定授業科目については、臨時的な非常勤講師の登用や同学部の教員が適切にAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。 教員の採用活動については、昨年度から引き続き、本学教員の人脈を通じた採用活動を実施し、教員の採用計画を確実に履行するよう努めている。</p> <p style="text-align: center;">履行中</p>	<p>今後は、本学教員の人脈を通じた採用活動と併せて、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalへの公募を随時実施し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 また、看護学部内の辞任対策プロジェクトで検討した就任辞退、退職に対する改善策を実施していく。</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>2. 設置計画での専任教員数30名に対し令和2年度の履行状況報告書においては新たに3名が辞任しているが、教員の就任承諾に係る手続きは適正になされたものであったか、具体的に説明すること。また、教員の就任辞退や辞任の原因分析を行うとともに、就任辞退・辞任者数の減少に向けた適切な取組がなされているか具体的に説明すること。加えて、教員の辞任による教育研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策についても併せて説明すること。</p>	<p>看護学部看護学科の設置認可申請、及びAC教員審査での就任承諾に係る手続きにおいて、就任予定者に対しては着任時期、予定職位、担当予定授業科目、給与等の処遇について説明し、少なくとも完成年度までは勤務するという同意を得た上で就任承諾書へ署名・押印を得ており、就任承諾に係る手続きは適正に行っていたと認識している。 また、入職時にはオリエンテーションを行い、労働環境や給与等の処遇について再度説明しており、認識の齟齬がないようにしている。 これまでの就任辞退や辞任の主な理由は、家庭内の諸事情による退職（単身赴任の教員が多く、家庭の状況が変わったことにより、自宅に戻らざるを得ない等）、本人の病気、死亡によるもの等の止むを得ないものであった。 就任辞退や辞任が多い状況を真摯に受けとめ、就任前に本学の状況を丁寧に説明し、齟齬なく理解を得た上で就任してもらうよう心がけている。 今後の辞任減少に向けた取組としては、給与等の処遇面の改善について検討する予定である。 欠員となった教員の担当予定授業科目については、教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>就任予定者に本学の状況を丁寧に説明し、十分な理解を得て、認識の齟齬がないよう徹底すると同時に、今後の辞任減少に向けた取組として、給与等の処遇面の改善について検討する。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>2. 設置計画での専任教員数30名に対し令和2年度の履行状況報告書においては新たに3名が辞任しているが、教員の就任承諾に係る手続きは適正になされたものであったか、具体的に説明すること。また、教員の就任辞退や辞任の原因分析を行うとともに、就任辞退・辞任者数の減少に向けた適切な取組がなされているか具体的に説明すること。加えて、教員の辞任による教育研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策についても併せて説明すること。</p>	<p>就任予定者に対して、AC教員審査での就任承諾に係る手続きにおいて、着任時期、予定職位、担当予定授業科目、給与等の処遇について説明し、同意を得た上で就任承諾書へ署名・押印を得る等、就任承諾に係る手続きは適正に行っており、認識の齟齬がないよう徹底している。 しかし、これまでの就任辞退、退職者が多く、当初の教員採用計画にあった専任教員数を充足していない現状に鑑み、看護学部内に辞任対策プロジェクトを立ち上げ、就任辞退、退職の原因分析と改善策の検討を実施している。 なお、これまでに欠員となった教員の担当予定授業科目については、臨時的な非常勤講師の登用や同学部の教員が適切にAC教員審査を経て担当しており、未開講科目もなく、教育・研究上の支障はない。</p> <p>(3)</p>	<p>引き続き、就任予定者に本学の状況を丁寧に説明し、十分な理解を得て、認識の齟齬がないよう、努めていく。 また、看護学部内の辞任対策プロジェクトで検討した就任辞退、退職に対する改善策を実施していく。</p> <p>履行中</p> <p>(3)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今 後 の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	1. 多くの専任教員が 就任辞退又は辞任して いることから、原因分 析とその結果に基づく 改善策を適切に講じる ことにより、教育研究 水準の維持向上等に配 慮した安定的な教員組 織の編成に努めるこ と。	指摘事項 (改善)	これまでの就任辞退、退職 者が多く、当初の教員採用 計画にあった専任教員数を 充足していない現状に鑑 み、看護学部内に辞任対策 プロジェクトを立ち上げ、 教育研究水準の維持向上等 に配慮した安定的な教員組 織の編成に向け、就任辞 退、退職の原因分析と改善 策の検討を実施している。 (3)	履行中	看護学部内の辞任対策プロ ジェクトで検討した就任辞 退、退職に対する改善策を 実施していく。 (3)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	2. 専任教員数が設置 計画から減少している ため、指示された教員 の採用計画を確実に履 行するよう努めるとと もに、今後、新たに教 員の採用及び昇格の選 考を行う際には設置計 画履行状況等調査にお ける教員審査を受信す ること。	指摘事項 (改善)	領域ごとの教員補充状況に バラツキがあるため、バラ ンスよく教員補充ができ るように努力し、本学教員 の人脈を通じた採用活動 を実施し、教員の採用計 画を確実に履行するよう 努めている。 また、教員組織を充実さ せ、教育・研究活動を保 障するため、教員の新規 採用、現任教員への担当 科目追加、職位の変更を 令和3年5月のAC教員審 査へ諮る予定である。 (3)	履行中	本学教員の人脈を通じた採 用活動と併せて、本学ホ ームページ、及びJREC-IN Portalへの公募を随時実 施し、教員の採用計画を 確実に履行するよう努め る。また、看護学部内の 辞任対策プロジェクトで 検討した就任辞退、退職 に対する改善策を実施し ていく。教員の新規採用 、及び担当科目の追加、 昇格の選考を行う際には 、適切にAC教員審査へ 諮る。 (3)

健康医療科学部 作業療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、今後の採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 現在、健康医療科学部作業療法学科においては、退職教員1名（准教授）の補充のため、令和3年5月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。</p> <p>(3)</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(3)</p>

遵守事項

履行中

健康医療科学部 作業療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)</p>	<p>1. 入学定員未充足の 改善に努めること。</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討している。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、当初計画していた募集活動が制限される中、発信する情報の見直しを図り、WEB上でのオープンキャンパス実施や、作業療法士の職業理解を目的としたオンライン動画の公開等を実施したが、令和3年度入学定員充足率55.0%となった。</p> <p>(3)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討する。また、文系コースで学ぶ高校生を対象に、作業療法士の職業理解を目的としたオンライン動画を公開し、学生確保を図る。</p> <p>(3)</p>
	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>履行中</p>	

健康医療科学部 理学療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、今後の採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 現在、健康医療科学部理学療法学科においては、就任辞退者1名（准教授）の補充のため、令和3年9月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。</p> <p>(3)</p>	<p>学校法人経営委員会において、毎年、教員補充について検討していく。中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編製の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編製の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編製の将来構想について検討していく。</p> <p>(3)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)</p>	<p>該当なし</p>		

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1.当初計画に対する専任教員の充足率が73.33%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和2年5月1日現在における専任教員の充足率は73.33%（11名/15名）であったが、令和2年3月のAC教員審査に2名（教員組織を充実させるために新規教員採用1名、職位不適格による再申請1名）を諮り、令和2年6月に教授1名、助教1名が専任教員として着任した。 （86.66%（13名/15名）） また、令和2年6月のAC教員審査に3名（教員組織を充実させるために新規教員採用2名、担当科目の追加1名）を諮り、令和2年10月に教授1名、助教1名が専任教員として着任している。 （100.00%（15名/15名）） さらに、令和2年9月のAC教員審査に3名（教員組織を充実させるために新規教員採用1名、担当科目の追加2名）を諮り、令和3年1月に助教1名が専任教員として着任した。（106.66%（16名/15名）） 未就任となった令和2年度着任予定者（教授1名）の補充については、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、候補者1名を令和3年3月のAC教員審査に諮る予定である。 現在、令和3年度着任予定者（准教授1名）より、令和2年11月に家庭の事情（新型コロナウイルス感染症の影響）による就任辞退の申し出があったため、現在、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募している状況である。（100.00%（15人/15人）） 欠員となった教員の担当予定授業科目については、非常勤講師の登用や教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当することから、教育・研究上の支障はなく、今後も授業開講時に間に合うよう、計画的にAC教員審査へ諮る計画である。 なお、学部内の教員人事在り方検討委員会にて、教員補充や分野・領域、年齢構成、中期的な教員組織編成等の検討をしており、教員組織をより充実させるために、当初の15名から、17名（113.33%（17名/15名））とする計画である。</p> <p>(2)</p>	<p>就任辞退、辞任が発生した場合には、適宜、本学ホームページ等にて教員公募を実施し、AC教員審査に諮ったうえで、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

健康医療科学部 理学療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行 状況等調査 追加書面調査時 (令和2年)</p>	<p>1. 当初計画に対する専任教員の充足率が73.33%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育・研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>令和3年5月1日現在における専任教員の充足率は93.3% (14名/15名)である。 現在、令和3年3月のAC教員審査に1名(教員組織を充実させるために新規教員採用1名)を諮っているところである。 また、令和3年度着任予定者(准教授1名)より、令和2年11月に家庭の事情(新型コロナウイルス感染症の影響)による就任辞退の申し出があったため、令和3年9月のAC教員審査に候補者1名を諮る予定である。 欠員となった教員の担当予定授業科目については、非常勤講師の登用や教員補充、同学部の教員がAC教員審査を経て担当することから、教育・研究上の支障はなく、今後も授業開講時に間に合うよう、計画的にAC教員審査へ諮る計画である。 なお、学部内の教員人事在り方検討委員会にて、教員補充や分野・領域、年齢構成、中期的な教員組織編成等の検討をしており、教員組織をより充実させるために、当初の15名から、17名(113.33% (17名/15名))とする計画である。</p> <p style="text-align: center;">履行中</p>	<p>就任辞退、辞任が発生した場合には、適宜、本学ホームページ等にて教員公募を実施し、AC教員審査に諮ったうえで、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p>

心理学部 臨床心理学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>1. 健康医療科学部作業療法学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試・広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討している。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、当初計画していた募集活動が制限される中、発信する情報の見直しを図り、WEB上でのオープンキャンパス実施や、作業療法士の職業理解を目的としたオンライン動画の公開等を実施したが、令和3年度入学定員充足率55.0%となった。</p> <p>(3)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試・広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討する。また、文系コースで学ぶ高校生を対象に、作業療法士の職業理解を目的としたオンライン動画を公開し、学生確保を図る。</p> <p>(3)</p>

心理学部 臨床心理学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)</p>	<p>1. 教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。</p>	<p>開設初年度は、入学者数34人（入学定員充足率56.6%）となった。要因は、令和元年9月に学則変更の認可が得られたものの、高校では私立大学への推薦入試対象者選出会議が8月までに終了しており、本学部への進学を希望していた受験生は、認可を待てずに他大学へ進路を変更した事例が多く、また、学生募集・広報活動が出遅れたこと、実施期間の不十分さが影響したと分析している。さらに、外部からは「医療創生大学」という名称から「医療」に特化した学部構成であるという印象を持たれ、心理学部の存在を認知しにくいことが推測されたため、心理学部の認知度を高めるべく、学部情報や教員紹介動画、教員によるミニエッセイ等をSNSや大学HPを通して発信した。その結果、令和3年度の学生募集では、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、一部募集活動が制限されたが、入学者数35人（入学定員充足率58.3%）となった。</p> <p>(3)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討する。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、教員による高校訪問や、来場型・WEBオープンキャンパスの開催、本学部の内容理解を目的としたダイレクトメールの送付や動画の作成、高校生の利用頻度の高いSNSを活用した情報発信等を計画している。また、WEB上だけでなく、ポスターや名刺等の紙媒体での広報戦略についても検討する。さらに、学費について見直し、学生の確保を図る計画である。</p> <p>履行中</p> <p>(3)</p>

国際看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和2年)</p>	<p>1. 薬学部薬学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>令和3年度の募集活動においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、一部募集活動が制限されたが、動画の配信やSNS、ダイレクトメールの送付等を実施し、入学者数は61人（入学定員充足率0.67）となった。 今後の18歳人口の推移や全国的な薬学部の志願動向予測、及び本学薬学部への入学状況等に鑑み、定員規模の適正化を図るため、令和4年度より入学定員を60人とするため、令和3年4月20日に大学の収容定員に係る学則変更の届出をした。</p> <p>(3)</p>	<p>WEBオープンキャンパスの開催やSNS、WEBコンテンツの強化、遠隔システムを活用した個別相談の充実、ダイレクトメールによる情報発信を実施する。 また、高校訪問やガイダンス、説明会の実施に加え、長期的な学生確保の観点から市内の中学校でも早期から大学理解を含めた職業理解を図れるよう取り組んでいく。</p> <p>(3)</p>
<p>認 可 時 (令和2年)</p>	<p>2. 心理学部臨床心理学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>開設初年度は、入学者数34人（入学定員充足率56.6%）となった。 要因は、令和元年9月に学則変更の認可が得られたものの、高校では私立大学への推薦入試対象者選出会議が8月までに終了しており、本学部への進学を希望していた受験生は、認可を待たずに他大学へ進路を変更した事例が多く、また、学生募集・広報活動が出遅れたこと、実施期間の不十分さが影響したと分析している。 さらに、外部からは「医療創生大学」という名称から「医療」に特化した学部構成であるという印象を持たれ、心理学部の存在を認知しにくいことが推測されたため、心理学部の認知度を高めるべく、学部情報や教員紹介動画、教員によるミニエッセイ等をSNSや大学HPを通して発信した。その結果、令和3年度の学生募集では、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、一部募集活動が制限されたが、入学者数35人（入学定員充足率58.3%）となった。</p> <p>(3)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討する。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、教員による高校訪問や、来場型・WEBオープンキャンパスの開催、本学部の内容理解を目的としたダイレクトメールの送付や動画の作成、高校生の利用頻度の高いSNSを活用した情報発信等を計画している。 また、WEB上だけでなく、ポスターや名刺等の紙媒体での広報戦略についても検討する。 さらに、学費について見直し、学生の確保を図る計画である。</p> <p>(3)</p>

生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年)	該 当 な し		

生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年)	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>生命理工学研究科については、現在退職教員の補充、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p> <p>研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、中・長期的な教員組織編成の将来構想を検討し、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>今後の教員組織の維持・向上のため、4名の教員を加えた（60歳代1名、50歳代2名、30歳代1名）。</p> <p>(3)</p>	<p>研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、中期的な、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p> <p>学長、研究科長、専攻主任を主体とする「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して中・長期的な教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(3)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD・SD委員会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">FD・SD委員会細則</p> <p style="text-align: right;">平成19年4月1日 制 定</p> <p>(趣旨) 第1条 この細則は、医療創生大学学則（昭和62年4月1日）第65条第2項及び医療創生大学大学院学則（平成4年4月1日）第10条の2に基づき設置された、FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。</p> <p>(審議事項) 第2条 委員会は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する次の事項を審議する。 (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項 (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項 (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項 (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行 (5) 授業評価の実施と結果に関する事項 (6) 職員のSDに関する事項 (7) その他FD・SDに関する事項</p> <p>(委員会の構成及び任期) 第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織する。 (1) 各学部を代表する教員 (2) 事務局を代表する職員 (3) その他学長が必要と認めたる者 2 委員の人数は、学部長会の意見を聴いて学長が定める。 3 委員の任期は、学長が定める。</p> <p>(委員長) 第4条 委員会に委員長を置く。 2 委員長は、学長が指名する。</p> <p>(委員会の招集) 第5条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。</p> <p>(任務) 第6条 委員会は、審議の結果を学長に報告する。また、必要に応じて、教授会に報告する。</p> <p>(雑則) 第7条 委員会は、必要と認める場合は、委員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。また、学長が認めたときには、小委員会を設置することができる。</p> <p>(事務) 第8条 委員会の事務は、教務学生課が当たる。</p> <p>(雑則) 第9条 この細則に定めるもののほか必要な事項は、委員会の意見を聴き、学長が定める。</p> <p>(改廃) 第10条 この細則の改廃は、委員会の議を経て、学長が行う。</p> <p>附 則 この細則は、平成19年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成22年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成26年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成27年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成29年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成30年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、平成31年4月1日から施行する。 附 則 この細則は、令和2年4月1日から施行する。</p> </div>
--

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
毎月1回実施（ただし、夏期休業期間は休会とする場合がある。また必要に応じて臨時に開催する場合がある。）

c 委員会の審議事項等

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD・SD研修会の実施
- ・授業改善アンケートの実施
- ・授業参観制度の実施

b 実施方法

- ・FD・SD研修会の実施
委員会において企画立案し実施している。基本的な内容として、学外から講師を招聘し、午前の部を講演、午後の部をグループワークとして実施している。
- ・授業改善アンケートの実施
前期及び後期の授業終了時期に授業内容に関するアンケートを学生に対して実施している。
- ・授業参観制度の実施
教員相互による授業参観制度を導入しており、見直し・検討を行いながら、教育力の向上に努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施
全学FD・SD研修会（令和2年度：1回）
第1回（令和2年10月）：参加率 100.0%
- ・授業改善アンケートの実施
前期：409科目（アンケート実施科目数）
後期：208科目（アンケート実施科目数）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD・SD研修会については、大学改革の喫緊の課題をテーマとし、高等教育の歴史、政策展開、国際化についてマクロに学ぶものから、授業の設計・方法、大学生の心理、大学職員のキャリア等、現場におけるミクロな個別ニーズに対応した「10のPDモジュール」を普通の授業展開（改善）に貢献している。
- ・授業改善アンケートについては、担当教員への結果のフィードバック、及び学内での公表をとおして、担当教員自身並びに教員相互の授業改善を促す仕組みづくりを検討しており、授業参観制度を導入し、検証を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業終了時期に実施（前期は6月～7月、後期は12月～1月）。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員：担当科目の結果を個別にフィードバック、ホームページで公開
学生：ホームページで公開

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・申請時の教育課程を履行しつつ、将来に向けて検証が必要となる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成23年4月 公表
- ・令和2年10月 公表
- ・令和3年6月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開中
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成30年度に評価機関（大学基準協会）の大学評価（認証評価）を受けた結果、「現時点での判定を保留」となり、令和3年度までに再評価を受けるよう指示があった。
本学では、令和2年4月に再評価の申請をし、「適合」の認定を受けた。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。